



尾久八幡

令和8年度4月号
令和8年4月10日発行
荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

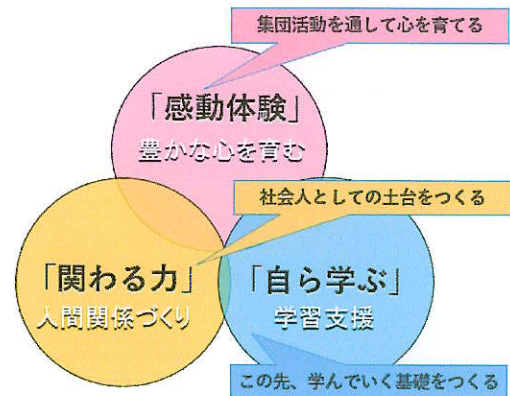
本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

4月7日(火)、第64回入学式が行われました。今年は171名の1年生が入学、全校468名で、令和8年度の尾久八幡中学校がスタートしました。

これから1年間、八幡中学校の教育の充実につとめてまいります。保護者、地域の皆様には、ご理解・ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、年度のはじめに際し、本年の本校の教育について、入学式の式辞を抜萃し、お伝えいたします。



* * * * *

ご入学おめでとうございます。私には、皆さんにこうあってほしいという願い・思いがあります。それは皆さんの“幸せ”です。皆さんにはこれから、明るく楽しい、豊かで充実した、幸せな中学校生活を過ごしてほしい。しかし、それだけでなく、その先の将来も幸せであってほしいのです。中学校を卒業してからの高校生活でも、さらに社会に出て働くなかでも、そこの一員として幸せにやっていってほしい。ですから義務教育最後の中学校生活3年間は、自分を磨き、**社会で通用する力を身につける**期間でもあります。そのために本校は、「文武両道」「品格・礼節」を校訓として掲げています。これを分かりやすく理解してもらうため、入学に際し、心がけてほしいこととして2つお話しします。

一つは「**自ら学ぶ**」ということです。みなさんは、一人ひとりそれぞれの良さ、限りない可能性をもっています。しかし、それも磨くことを怠れば、埋もれてしまいます。それを磨き、伸ばすには、まず自分から物事に取り組むことが大切です。自分から学ぶ、人から学ぶ、さらに体験を通して学ぶ。「文武両道」は、そうした自分を磨く姿勢によって成されるものであり、この姿勢は生涯にわたって生きる、自身の力となります。

二つ目は、人と「**関わる**」ということです。人は誰も夢や希望、そして悩みもあり、また、それぞれに個性があります。その上で、共に同じ社会の中で生活をしています。ですから、自分だけのことを考えていては、うまくいきません。互いを認め、尊重しながら、支え合うことが大切です。それは、小さな社会＝学校でも同じです。共に生活する“相手”がいるということを忘れず、思いやりをもって接し、助け励ます。「品格・礼節」は、他者への敬意が基本にあり、このように人と関わっていくことが、それを実践することにつながります。

「自ら学ぶ」、思いやりをもって人と「関わる」、この2つを心にとめ、中学校生活を充実したものにしていってください。

* * * * *

本年度の学校経営方針についても、掲載いたしました。今年一年間、よろしくお願ひ申し上げます。

令和8年度 学校経営方針

荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

I 本校の教育目標

夢や目標をもって「主体的に活動する」ことができる、知・徳・体の調和のとれた自ら学び、思いやりのある、たくましい生徒を育成する

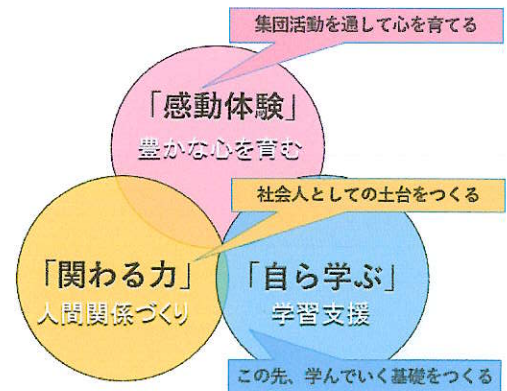
- 自ら学び、自ら考え、正しく判断し、実行する生徒
- 自他を尊重し、協力し合える、心豊かな生徒
- 心身ともに健康で、ねばり強くやり抜く生徒

II 校訓

「文武両道」「礼節・品格」

III 尾久八幡中の教育

「生徒を幸せにする学校（今を、そして将来にわたって）」
— 社会の一員としての力を持った、人間性豊かな人に —



V 本年度の重点目標

「確かな学力の定着・向上を図るとともに、豊かな人間性を育成する。」

- 1 学び方指導と家庭学習により、自ら学ぶ力を身につけさせることで、学力の定着・向上を図る。
- 2 ICT機器の活用等により、指導方法や学習環境を改善することで、学習活動の充実を図る。
- 3 授業活用や読書啓発活動により、学校図書館活用を推進することで、学習意欲の向上を図る。
- 4 外部人材等の活用により、指導内容を高めることで、教育活動の充実を図る。
- 5 文化的活動や奉仕活動、キャリア教育等の充実により、社会性を育むことで、豊かな人間性を育成する。

VI 指導の重点

上記の重点目標について、学校パワーアップ事業を有効に活用しながら、組織的な実践により具現化を図る。

1 学びの“場”を保障する学校づくりで、確かな学力を（「学力向上マニフェスト」等を活用して）

① 学び方指導と家庭学習の定着

- ・学校及び家庭での学習の仕方指導や、個々の進度に合わせた学習課題の工夫により、学習習慣の定着を図る。

② 指導力の向上と指導方法の改善

- ・デジタル教科書やタブレットPC等のICTの活用により、学習活動の充実を図る。
- ・「調べる学習コンクール」「ビブリオバトル」等、図書館活用による読書活動推進、授業改善を図る。
- ・実験観察、考察発表等を取り入れた授業改善により、実体験により理解を深める理科教育の充実を図る。

③ 学習意欲の向上

- ・各種検定の推奨、「学び方講座」等での外部講師の活用により、主体的に学ぶ姿勢の醸成、学習意欲の向上を図る。

2 関わりを大切にする学校づくりで、社会の一員としての力を（「想像力あふれる教育の推進」等を活用して）

① 人間力を育てる指導の充実

- ・道徳授業の改善等により、互いを尊重する姿勢と規範意識を育てる教育の充実を図る。
- ・Q-U等を活用した人間関係づくりや、不登校や発達等の個々の特性・課題への支援など、個々の生徒に応じた社会的自立のための取組の充実を図る。

② キャリア教育の推進

- ・「マナー講座」「勤労留学」「キャリア・ワークショップ」等の取組の充実により、キャリア教育における

基礎的汎用的能力の育成を図る。

③ 奉仕の精神の醸成

・ J R C 活動や地域貢献活動を推進、社会貢献意識や奉仕の精神の育成を図る。

3 文化的で教養のある学校づくりで、豊かな人間性を（「未来を拓く子どもの育成」等を活用して）

① 文化的活動の活性化

・日本の伝統文化学習、芸術・表現活動、文化系部活動等の文化的活動の充実を図ることで、文化・芸術への興味・関心を高めるとともに、芸術表現の美しさや共同体験の楽しさなどを味あわせる。

② 特別活動の充実

・学校行事・学級活動等の特別活動や部活動の充実を図ることで、集団としての達成感・成就感を高め、個々の生徒の自己実現を図る。

③ 環境美化活動の充実

・「緑のカーテン」等学校環境の美化活動や「地域清掃」を通じて、SDG's への意識の向上を図りながら、文化的な教育環境を整備する。

4 生徒（生活・進路）指導を通して、心と体の成長を支える教育を

① 生活指導（「社会生活で通用する」態度・習慣を）

・信頼関係を基盤に・・・生徒「認め・励まし・褒め、支える」、保護者「共に育てる」

・軸をつくる指導を・・・「時間・あいさつ・みだしなみ」、「規範意識」、「自尊感情」

・組織的な対応で・・・「共通理解・共同実践」、「早期発見・早期対応」

② 進路指導（「社会で働いていく」ための生き方指導を）

・キャリア教育の視点で・・・「基礎的・汎用的能力の育成」

・軸をつくる指導を・・・「望ましい勤労観・職業観」

・組織的な対応で・・・「進路・学習部が中心となり」、「発達段階に応じ」、「系統的・計画的に」

VII 組織・運営

1 円滑な適切な学校運営

① 校務分掌に基づき、組織的な運営を行う。

② 円滑な運営のため、主幹・主任は所管分掌等の進行管理、状況把握・確認を行う。

③ 「報告・連絡・相談」、「確認・報告」を徹底し、より適切な学校運営に努める。

2 研究・研修

① 課題意識に基づき、校内研修等を活用して教科等の指導力の向上を図る。

② ライフステージに応じ、O J Tにより教員としてのスキルの向上を図る。

3 保護者・地域との連携

① 適切な情報提供や日頃の電話連絡等により、相互理解が深まるよう努め、保護者との信頼関係を築く。

② 地域人材の活用や地域行事への参加など、学校教育活動と関連させることで、地域との連携関係を築く。

4 サービスの厳正

① 法令順守、勤務の厳正による服務規律の確保

② 服務研修の月1回実施等による体罰等の服務事故防止

5 危機管理

① 「命を守る」という観点に立ち、緊急事態発生時の体制を確立する（事件・事故、災害、衛生管理、学習指導、生徒指導、薬品管理、対外折衝等）。

② 生徒の個人情報の管理、学校事務の処理等については細心の注意を払い、適切に行う。